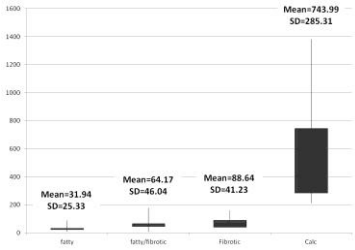
20077

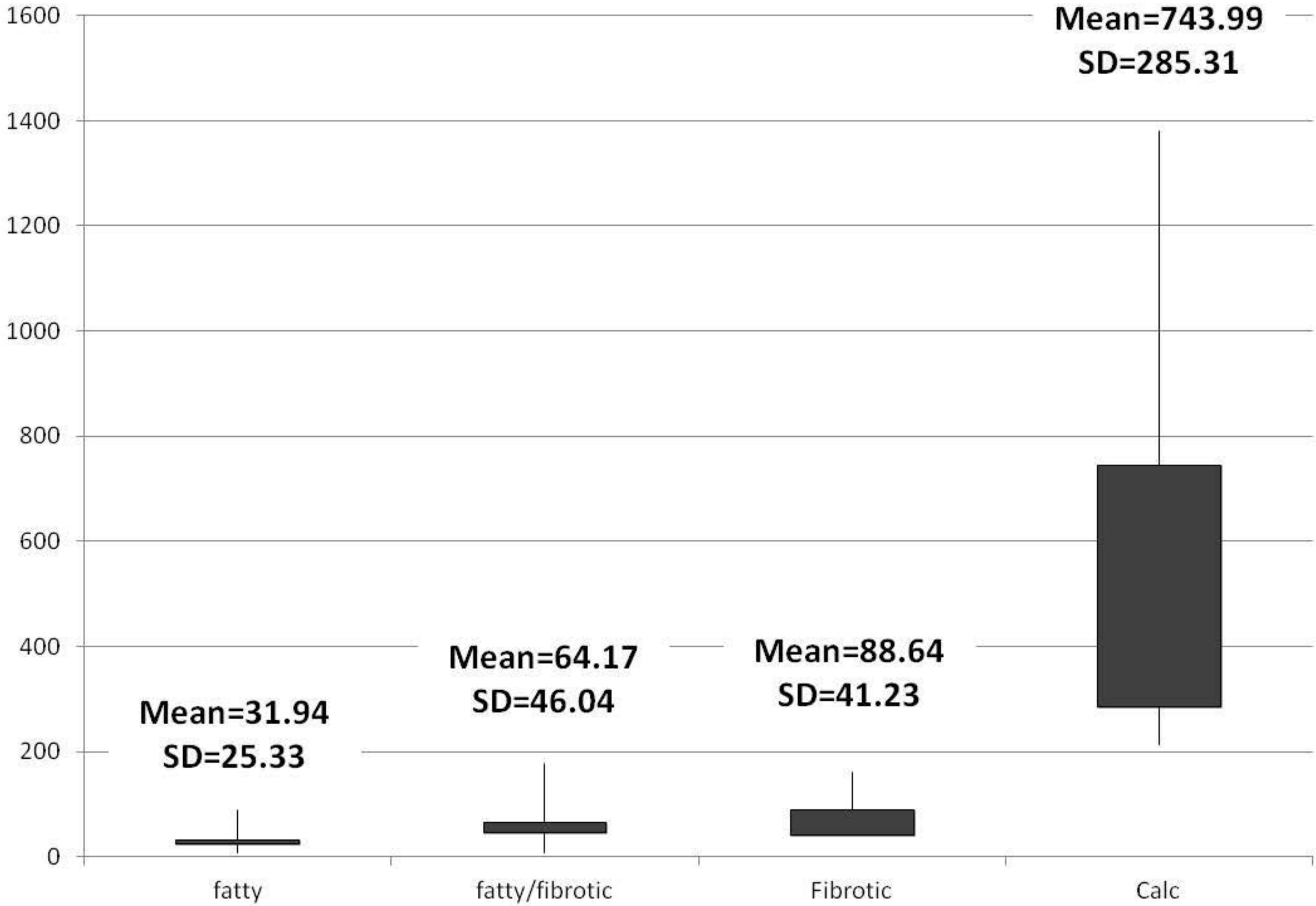
低管電圧を用いた冠動脈造影CTの冠動脈病変におけるIVUS所見の比較検討

[1]草津ハートセンター

安藤　洋亮[1]、村上　和男[1]、細川　良介[1]

はじめ:当院では、BMI23以下の患者様に冠動脈CT(以下CTCA)を施行する際、管電圧を100kVにて撮影を行っている。管電圧を下げる事によりplaqueの性状とCT値の関係性を比較検討した。対象:CTCAを施行後、2か月以内にPCIを行った患者様。方法:病変部のCPRを作成しX-section画像にてCT値を測定。IVUS画像と比較し同一場所のplaqueを目視およびフリーソフトにてヒートマップ化したもので評価を行った。病変部をfatty,fatty/fibrotic,fibrotic,calcの4つに分類。結果:表参照考察:石灰化によって生じる線質硬化でのCT値の変化があり、またIVUSとCTCAのX-sectionでの位置情報の変化があり、目視による比較評価が主体であった為、VHやimapと異なりIVUSでの定量評価が困難である。今回得たデータはCT値とplaqueの性状との関係性の指標の一つになると考える。まとめ:造影剤はコンプトン効果によるCT値の増大があったが、plaqueや石灰化は主だった上昇はないものと考えられる。当日に最新のデータを発表したいと思います。




1600
1400
1200
1000
800
600
400
200
0
Mean=743.99
SD=285.31
Mean=64.17
SD=46.04
Mean=88.64
SD=41.23
Mean=31.94
SD=25.33
fatty
fatty/fibrotic
Fibrotic
Calc